

# 1 型糖尿病とともに生活する人の補食行動のプロセス

高知大学医学部附属病院

○下元 雅子 山崎 麻朱 大坪 佳代 石浦 光世  
坂本 美和 (2階東病棟)

もみのき病院

岡田 泰助

キーワード 補食、プロセス、1型糖尿病、低血糖

## 【目 的】

1型糖尿病の治療は、生活に合わせたインスリン療法が主体となっており、インスリン療法を行う上で補食は血糖の変化を安定化させるのに重要な役割を果たす。補食の種類と取り方については紹介されているが、実際に補食をする場合には血糖値だけでなく、その人の考え方やその場の状況、生活、経験などさまざまな要因が関係していると考えられる。本研究では、それらの要因や補食の選択のプロセスを明らかにすることで、1型糖尿病をもつ人の生活に対する理解を深め、糖尿病サマーキャンプでの援助に生かしていくことを目的とした。

## 【方 法】

対象はA県の糖尿病サマーキャンプに参加経験のある12～35歳の小児期発症の1型糖尿病患者5名で、平成21年4月にインタビューを行った。方法は非構成的面接法を用い、インタビューで得られたケース毎に描写し、補食を選択する過程、影響する要因を捉え、ケース間で検討し、分析、カテゴリー化した。

## 【倫理的配慮】

看護部内の委員会による倫理審査を経て、主治医の承認を得た後に、研究対象者へは研究内容及び研究結果の公表等についての説明を行い、自由意思での研究参加の承諾が得られた者を対象とした。また、対象者が未成年の場合は保護者の同意も得た。研究への参加によって対象者の不利益や負担が生じないように配慮した。

## 【結果および考察】

補食行動のプロセスには①補食準備行動のプロセスと②補食摂取行動のプロセスが抽出された。①は『経験』を『生活』に合わせ、補食を準備するというプロセスであり、②は①を基盤とし、『低血糖』が生じた時に補食を摂取するというプロセスであった。

補食を準備する際は医療者、家族、同じ疾患を持つ仲間からの「助言・教育」、本やメディア、医療者から得た「知識」、本人及び周囲の「体験」などの『経験』をふまえ、学校や仕事、家などの「生活場面」やインスリン量、食事、運動の「生活予測」などの『生活』に合わせて補食の準備を行っている。実際に『低血糖の自覚』や『低血糖の可能性』が生じた際に、①のプロセスが基盤となり、②のプロセスが明らかになった。このことより、補食行動のプロセスには、まず助言・教育、知識が大きく影響している。その後、生活の中で様々な体験をしながら各個人のプロセスを見出していっていると言える。そのため、一般的な情報を与えるだけでは生活に合った援助とはいえないことがわかった。

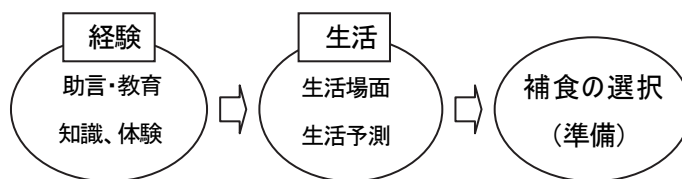


図1 ①補食準備行動のプロセス

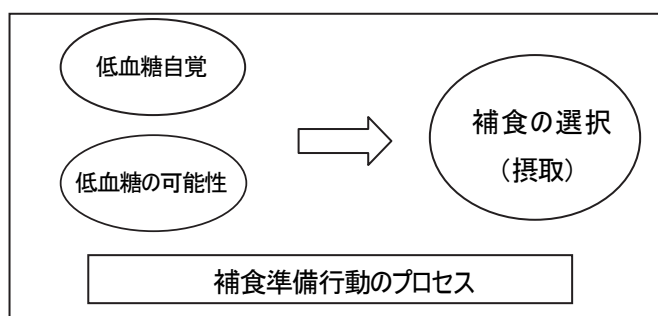


図2 ②補食摂取行動のプロセス

【結 論】

医療者の助言・教育は、補食準備行動のプロセスの『経験』の一要素であり、補食行動のプロセスの最も重要な基盤である。よって、医療者はこのことを認識した上で、助言・教育をすることが求められている。また、糖尿病サマーキャンプは、実際の生活に近い状態で関わることができるよい機会である。補食行動に関わる看護師の役割は重要であり、効果的な援助を行うことは、各個人の補食行動のプロセスを理解することから始まる。

〔平成21年9月25・26日 第40回日本看護学会 小児看護（高知）および  
平成21年11月6・7日 日本糖尿病学会中国四国地方会第47回総会（岡山）にて発表〕